

竹川病院

小中 佳祐 (リハビリテーション部 / 理学療法士)

| | |
|-------|---|
| 功 績 | 「2025年職場における腰痛予防宣言」認定施設として金メダル施設から”Champion Stage”への昇格を果たした功績 |
| 推薦者氏名 | リハビリテーション部長 可児利明 |
| 推薦理由 | 2022年3月に、厚生労働省では職場における転倒・腰痛等の減少を図る対策について【提言】を発出し、腰痛等予防の取組を推進するにあたっては、腰痛予防に知見がある理学療法士を活用することが明記されました。その流れを受け、協会の推進する「職場における腰痛予防宣言」のキャンペーンを継続展開し、【ChampionStage】まで到達したことは、理事長賞に値すると思ひ推薦させていただきます。 |

内 容

日本理学療法士協会は2020年度より、厚生労働省の後援のもと、理学療法士の専門性を活かして自施設における腰痛予防に貢献することを目的として、「職場における腰痛予防宣言!」と銘打ったキャンペーンを展開しています。

当院は初年度より積極的に参加し、金メダル施設として認定を受けていましたが、このたび最上位区分である【ChampionStage】に到達することができました。

これまで院内においてキャンペーンの中心的役割を担っていたのが理学療法士 小中佳祐です。

【ChampionStage】への認定は、院内に腰痛予防体操を普及、定着させることにとどまらず、理学療法士が所属しない他施設への活動拡大が求められました。

当院では外部施設からの腰痛予防事業や問い合わせに応え、理学療法士の知識技術を発揮しました。具体的には板橋区からの依頼を受け区の清掃工場で腰痛予防指導を実施しました。特に実技実施の際は、実施場所や疼痛がある方への適切な対応（現在腰痛の治療中である者は対象から除くこと等）、施設内の安全衛生委員会等の認証を得て実施する等、リスク・安全面への配慮を十分に行うよう努めました。

2024年度事業報告書によれば、全国で銅メダル278施設、銀メダル201施設、金メダル109施設 ChampionStage 51施設となっています。2025年度本事業においてはChampionStage 33施設が認定されており、東京都では竹川病院とライフサポートひなたの2施設のみが認定されています。

ChampionStage認定施設は、日本理学療法士協会ホームページにおいて、他施設からの活動要請に応じる窓口として掲載されており、今後も当院は地域および社会に向けた腰痛予防活動を積極的に実践していきます。